

自由テーマ

消防団組織の再編

テーマ選定理由

掛川市は5月19日に消防団組織の再編に関する素案を示され、分団を統合し10方面30分団を6方面21分団に再編するとの報道がありました。

再編にあたっては、各地区の分団と調整を図った上で基本計画を策定、2025年度に着手する方針とのことです。

平成30年度の地区集会にも同様の要望をお願いしているが、城北地区の消防団組織は、地区内の5区の消防団が以下のように3分団に分かれており、消火活動だけでなく各種災害対応も分かりにくく、地区のまちづくりを進めていく上でも支障となっており、再編にあたって是非配慮願いたい。

北門区	⇒	掛川分団
城北町区・弥生町区	⇒	掛川中央分団
下西郷区・下西郷西区	⇒	西郷分団

具体的な提案等

掛川市が策定する消防団組織の再編において、城北地区が目指す「安全安心なまちづくり」が円滑に進むよう城北地区5区が1つの消防分団となるよう考慮願いたい。

自由テーマ

通学路・避難経路上の土砂災害警戒区域の安全対策

テーマ選定理由

当テーマは、平成25年度から要望している地区の最大の懸案事項であります。問題の箇所は、下西郷区内雇用促進住宅北側の城北小学校の通学路上にある斜面のがけ地です。市のハザードマップでも「急傾斜地崩壊、土砂災害警戒区域」に指定されている危険箇所です。

当箇所は、通学路だけでなく広域避難所（城北小）の避難経路にもなっている大変重要な箇所であります。小学生の保護者は、荒天時の通学途上の心配は尽きず、また市の避難指示が出ても避難経路上の不安が常についてまわります。避難経路が通行不能となれば避難所は無意味となり、災害対策上でも経路の安全に万全を期すべきだと考えます。

通学する子供達や避難場所への経路の安全確保は、安全安心なまちづくりを目指すうえで最も重要な施策だと思えます。

今までの地区の要望に対する市当局の回答は、民間委託会社の調査で、大規模な崩落の発生の可能性は低く、パトロールで目視していくとのことであります。

しかしながら、現在もハザードマップで注意を呼び掛けている急傾斜地の土砂災害警戒区域に変わりありません。全国各地で土砂災害が多発しており被害が出る前に手を打つべきと考えます。”

具体的な提案等

子ども達の通学路である点を何よりも重く受け止めていただき、雨期でも親も子供も安心して通学できるように、急傾斜地崩壊の恐れを少しでもなくするような崩落防止対策、法面安定化等のためコンクリート吹き付け工事や最新工法などにより早期に施工していただきたい。

令和5年度 城北 地区集会 自由テーマ

自由テーマ

地区内法人との災害支援協定に向けての行政の支援・指導

テーマ選定理由

浸水や地震など災害時の当地区の広域避難所の城北小学校は、地区外の一帯東にあり、急な坂の上にある荒天時の避難は困難が予想される。

また、同避難所は、当地区以外に葛ヶ丘・粟本地区も同一であり、収容能力を超えている。

さらに幹線水路が最終的に倉真川に注ぐが、過去にもバックウォーター現象もあり、必ずしも公会堂や公民館も安全ではない。

この状況の中、地区内の法人、当地区なら掛川市農協やよい支所・さすが市は、地区の中心地にあり敷地（駐車場）も広く夜間は空いている状態であり、避難所としても、また食料品等の物資の支援もお願いしたいと思う。

具体的な提案等

地区内法人の（例）：掛川市農協やよい支所・さすが市

災害時における広域避難所の補完として、近隣の企業や法人の所有地（駐車場）を緊急避難的に借用して、避難先や救援物資等で活用できるよう事前に「災害時における災害支援協定」を締結したいので、行政にも指導助言等の支援をお願いしたい。

自由テーマ

地域避難所の開設状況の周知を同報無線放送の活用

テーマ選定理由

大雨等により避難指示が発令された場合、自主防災会は公民館等を地域避難所として開設し、各区民へ周知している。

以前、城北町区では区民へ避難所開設周知が平日も昼間で、各部長や組長、区民が仕事等で不在のため区民への伝達が末端まで届かない事があったので、避難所開設の周知連絡を行う事を見直し、大雨洪水警報が発令され警戒レベル4の「避難指示」が発令されたときは、必ず避難所開設を行うことと、その旨を区民へ周知した。

しかし、区民は在宅時や外出先でも、避難所開設情報を知ることができたら、さらなる安心・安全感の向上につながると思われる。

具体的な提案等

「避難所開設」について、100%の区民への周知は、難しいところであるが、少しでも多くの区民へ「避難所開設」が届くように同報無線放送を活用して、各区の避難所開設状況を周知願いたい。

自由テーマ

環境美化（河川、公園、歩道）

テーマ選定理由

1 河川

倉真川左岸の堤防の草刈りを以前から農業用資材として地元の農家が行ってききましたが、高齢化が進み作業が困難になってきている。

また、傾斜が急で危険な箇所もあり、業者に支払って依頼している人もいる。”

2 公園

公園の大木から落ち葉が多く、冬場の西から東への風により周辺の道路や住居へ舞い込み、清掃が追い付かなくなるほど大変な清掃作業を要する。

3 歩道

歩道の植樹帯に植木もなく草が生えている箇所やくぼ地で危険な箇所が随所に点在しており、住民が草取りを行っているが難しい状況である。

具体的な提案等

1 河川の草取り

- ・良い対応策もなく、本来管理すべき部署で検討していただけないか。
- ・良い事例があれば、ご教示願いたい。

2 公園環境の美化

- ・各公園の大木の伐採又は大幅な選定などを定期的（2～3年サイクル）に現場を見直して適切な管理
- ・公園内に公園名や注意書等を記載した看板の設置

3 歩道の美化（安全対策）

- ・植樹帯に新たに木を植え緑化
- ・場合によっては、コンクリートで埋めて、つまずき防止等のリスク軽減
- ・地元で散見されるので、市内全域のチェックが必要